

藤井寺市発掘調査概報 第1号

2009年3月
藤井寺市教育委員会

アリ山古墳（ARK2008-1区）

アリ山古墳は誉田御廟山古墳の外堤西側に存在した方墳で、一辺45mを測る。現状は北側、西側及び東側を擁壁で囲まれて宅地化されていた。1961年に実施された発掘調査では、墳頂に3基の施設の存在を確認するなど、貴重な成果をあげていることは周知のとおりである。アリ山古墳の南側には、一辺50mの方墳、東山古墳が存在する。

病院建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出されたため、協議を行い、申請者の依頼を受けて、道路建設部分にトレントを設定して調査を実施した。調査面積は約95m²である。トレントを設定した場所は、アリ山古墳の墳丘に北接する位置にあたる。北側の周濠等、同古墳に関連する施設の検出も予測される場所であり、そのような認識のもとに調査を実施した。

調査の経過及び成果

調査区は農地として使用されており、西側の道路より約3m、墳丘部分の現状より約2m低い。西側の道路部分が約3m高いのは、道路建設に際して盛土がなされたためである。

現状のレベルはT.P.23.6m程度であるが、西端は段をなして高くなっているT.P.24.2mを測り、0.6m程度の比高が認められる。このため、西端部分以外は耕土（第1層）の下に淡灰褐色細砂（第2層）があることを基本層序とするが、西端部分は第1層と第2層の間に灰色粘質土と暗褐灰色細砂が混じる層（第8層）が存在する。第2層及び第8層は、中世以降に堆積したものである。

調査区は地形分類上は下位段丘上に位置しているが、すぐ東に氾濫原と接している。このため、地山の状況は一様ではなく、複数の層の堆積が認められる。調査では、特に遺構検出の際に、地山と遺構埋土との判別に時間を要したが、遺物出土の有無や断ち割りによる各層の堆積状況の観察等により、AからHの各層を地山と認識した。地山上面は場所により高低差があるが、トレント断面の観察では、標高の最も高いところでT.P.23.4m前後、最も低いところでT.P.23.1m前後を測る。



図1 トレント位置図 (S = 1 : 1,000)

遺構検出は、すべて地山上面で行った。

SD01は、トレンチ中央部で検出した溝である。北西方向に走り、上端の平面形態はほぼ直線である。幅0.5m前後、深さ0.1m前後を測る。埋土は淡灰色細砂である。遺物は土師器の細片のみが出土した。

SX01は、トレンチ西側で検出した掘り込みである。上端の平面形態はいびつな円形を呈し、直径は最大で1m程度、深さ0.16m程度を測る。埋土は灰色細砂である。この掘り込みについて、人為的に掘削されたものというよりも、自然のくぼみに土が堆積したものである可能性が高いと思われる。トレンチ西側では、他にもいびつな円形を呈した掘り込みを検出しているが、これについても自然のくぼみに土が堆積したものであろう。

以上の他にトレンチ東端で掘り込みと井戸を検出したが、埋土の状況から、いずれも中世か近世以降の所産であると思われる。

なお、SX01の西側で、円筒埴輪片と若干の須恵器片が地山上にまとまって散乱している地点が認められた（写真5、遺物集中地点）。遺構としては認識できなかったが、何らかの人為的な行為の結果である可能性も考えられる。

遺物は整理用テンバコ3箱分出土した。先に述べたSD01出土土器とSX01西側の遺物集中地点のものを除いては、いずれも包含層からの出土で、原位置をとどめているものは認められない。円筒埴輪、形象埴輪、土師器、須恵器、瓦器、瓦が認められるが、いずれも破片である。

盾形埴輪と蓋形埴輪の2点の形象埴輪を図化した。アリ山古墳の形象埴輪は、1961年の調査において、甲背形埴輪、草摺形埴輪、蓋形埴輪等の破片の出土が報告されており、今回出土の2点の形象埴輪は、同古墳の形象埴輪の内容について新たな知見を加えることとなった。

小結

今回の調査では、アリ山古墳に使用されたと思われる埴輪は出土したが、当初予測していた周濠等、同古墳に直接関連する施設は確認できなかった。これについては周辺の状況も視野に入れて今後検討していく必要がある。（新聞）

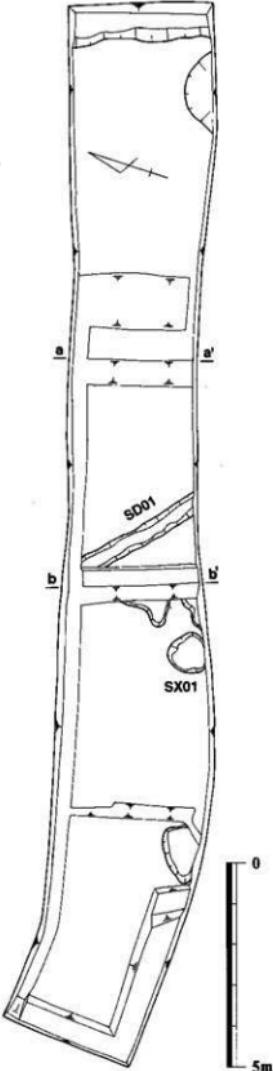


図2 遺構平面図

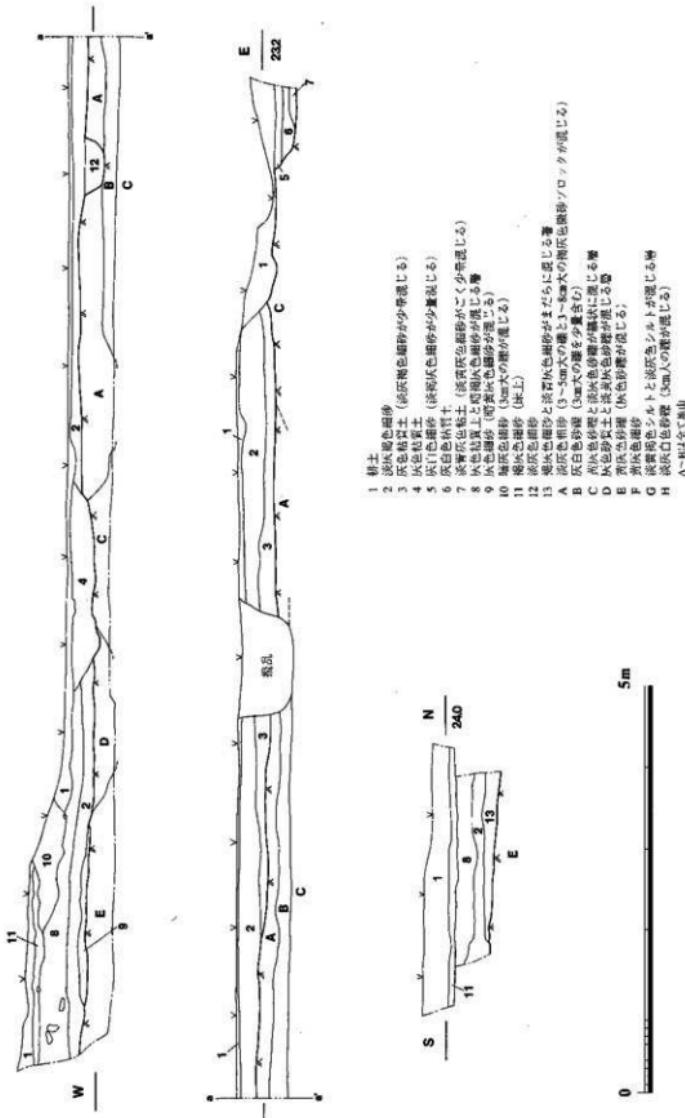


図3 トレーン断面図

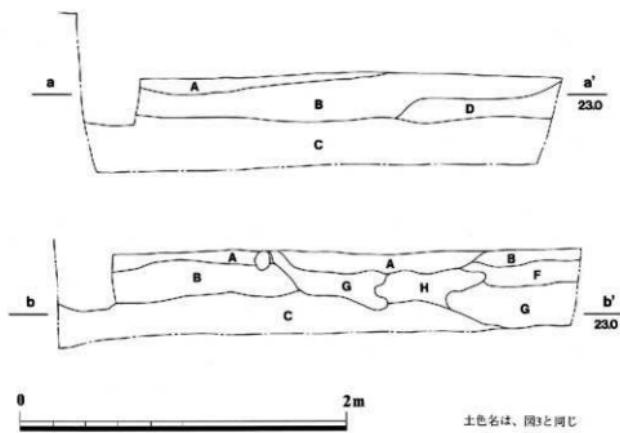


図4 断ち割り断面図

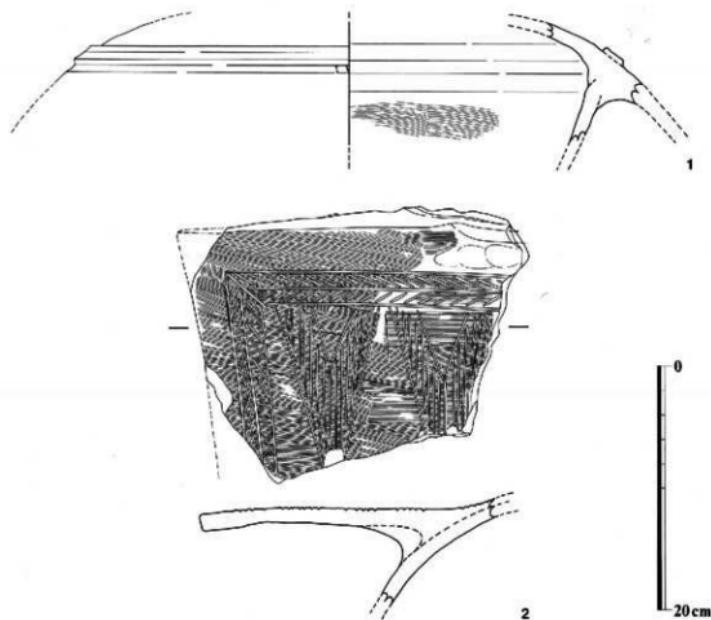


図5 遺物実測図 (1: 蓋形埴輪、2: 盾形埴輪)



写真1 全景（東より）



写真3 a-a' 断ち割り断面（西より）



写真4 b-b' 断ち割り断面（西より）



写真2 全景（西より、後方は黒田御廟山古墳）



写真5 遺物集中地点（北より）



1

写真6 盾形埴輪



2

写真7 盾形埴輪

例 言

- 本書は、病院建設に伴い2008年度に実施した、アリ山古墳（ARK2008-1区）発掘調査の概要報告書である。調査地は、藤井寺市野中1丁目120-3、野中2丁目121に所在する。
- 調査は、申請者の依頼を受け、藤井寺市教育委員会事務局教育部文化財保護課が実施した。期間は、現地調査（外業）2008年10月30日～11月19日、整理作業（内業）2008年12月11日～2009年1月30日である。
- 本書の作成は新聞義夫が行い、木本泰、下地陽子、寺崎理恵、深尾まき子が参加した。
- 調査にあたり、神戸商船大学名誉教授 北野耕平氏よりご指導、ご教示をいただきました。心よりお礼申し上げます。
- 遺構写真的撮影は新聞が行ったが、遺物写真的撮影は有限会社阿南写真工房にお願いした。
- 図面の方位は、特に断りのない限り座標北を使用した。標高はT.P.を用いた。トレーナー位置図は、上を座標北とした。

報告書抄録

| | |
|------------|--|
| ふりがな 書名 | ありやまこふん |
| 著者名 | アリ山古墳 |
| シリーズ名 | ARK2008-1区 |
| シリーズ番号 | 藤井寺市発掘調査報告 |
| 編著者名 | 第1号 |
| 編集機関 | 新聞義夫 |
| 所在地 | 〒583-8581 大阪府藤井寺市岡1丁目1番1号 TEL 072-939-1111 (代) |
| 発行年月日 | 西暦2009年3月2日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東經 | 調査面積 m ² | 調査機関 | 調査原因 |
|------------------|-----------------------------------|-------|------|-------------|--------------|------------------------|--|------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| ありやまこふん アリ山古墳 | 新潟県 ふじいでし 藤井寺市 のなか 野中 | 27226 | 41 | 34° 33' 11" | 135° 36' 19" | 95 | 現地調査 (外業) 2008年10 月30日～ 11月19日 整理作業 (内業) 2008年12 月11日～ 2009年1 月30日 | 病院建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な出土物 | | | 特記事項 | |
| アリ山古墳 | 墓 | 古墳 | 溝、土塁 | 円筒埴輪、形象埴輪 | | | | |